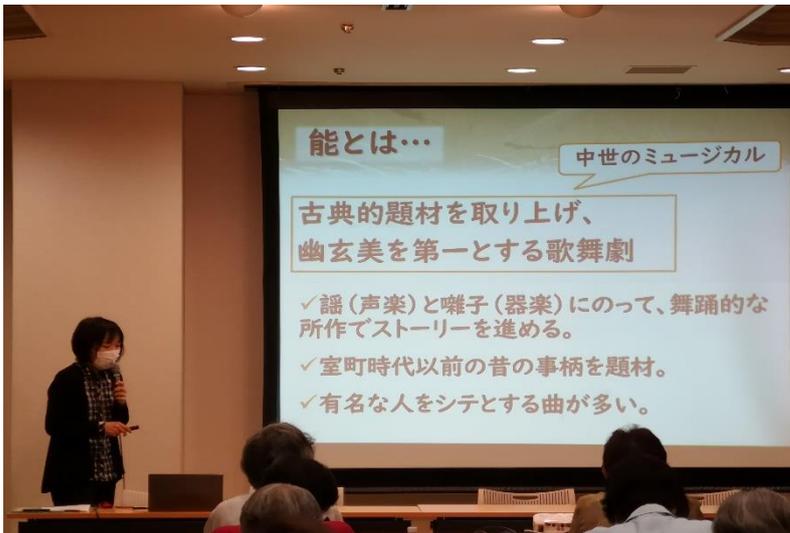


伝統芸能から人間ドラマを楽しむ 特別短期講座

テーマ：第2回 能『葵上』～女のプライドと愛のはざま

日時：2023年5月10日 9:45～11:45

講師：北見 真智子 先生（大阪音楽大学講師・音楽学）

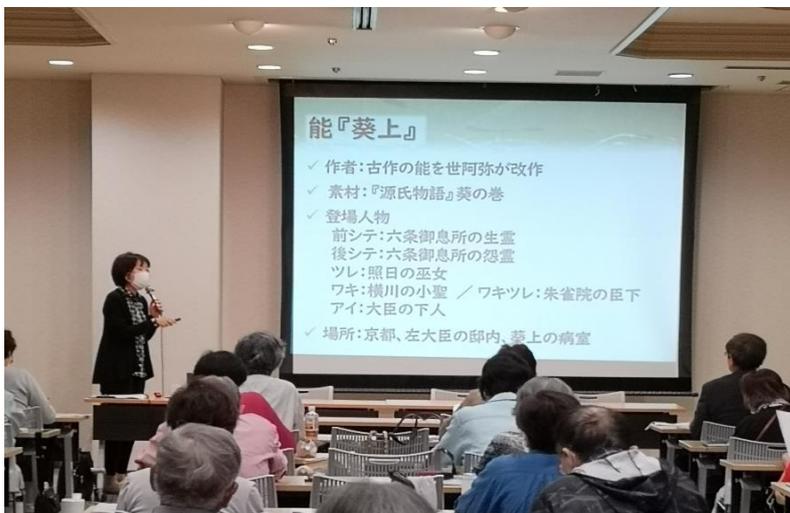


能とは・・・

日本の伝統的な古典芸能であり、古典的題材を取り上げ、面と美しい装束を用い専用の能舞台にて上映される歌舞劇

能の題材

古典的題材を取り上げ、幽玄美を第一とする歌舞劇
・現行曲数：約 240 番
・主題：王朝文学、伝統詩歌、戦物語など
人間の運命や情念を描く



能『葵上』

作者：古作の能を世阿弥が改作

素材：『源氏物語』葵の巻

登場人物

前シテ：六条御息所の生霊

後シテ：六条御息所の怨霊

ツレ：照日の巫女

ワキ：横川の小聖 / ワキツレ：朱雀院の臣下

アイ：大臣の下人

場所：京都、左大臣の邸内、葵上の病室

能『葵上』あらすじ

（前半）光源氏の正妻、左大臣家の息女の葵上は、物の怪に取りつかれ寝込んでいる。梓の弓によって亡霊を呼ぶ照日の巫女を招き、物の怪の正体を明らかにする。梓の弓の音にひかれて六条御息所の生霊が破れ車に乗って現れる。源氏の愛を失った恨みを述べ、葵上の枕元に寄り責めさいなみ、霊界へ連れ去ろうとする。

（後半）家臣たちは六条御息所の激しさにおののき、強力な法力を持つ修験者横川の小聖を呼ぶ。急ぎ駆けつけた小聖が早速祈祷を始めると、御息所の心に巣くっていた嫉妬心が鬼女となって現れる。恨みの魂と化した御息所は、葵上のみならず小聖にも激しく襲い掛かる。しかしついに御息所の怨霊は祈り伏せられ、悪鬼さながらの怨霊も心を和らげて成仏する。

原作では・・・

六条御息所 (29 歳から 30 歳)

- ・ある大臣の娘として、高貴な家に生まれる
- ・16 歳の時に皇太子 (桐壺帝の弟) の妃として世間的な脚光を浴び宮廷社会に入る
- ・一人の姫君を生んだが 20 歳の時に皇太子と死別、若くして美しい未亡人となる

葵の上 (26 歳)

- ・左大臣の長女
- ・源氏の元服の時に結婚、最初の正妻となる
- ・源氏に打ち解けることが出来ず、お互いに牽制しあうような夫婦であるが、懐妊したことで源氏との夫婦仲は改善の兆しを見せる。

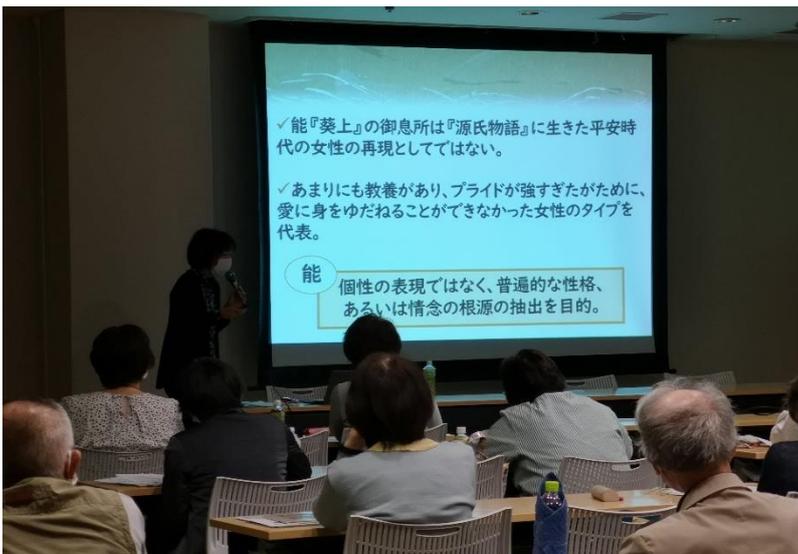
車争いとその後

- ・賀茂神社の例祭にて 葵上の車 (場所の確保もせず出かけ、地位と権力に物言わせ場所を提供させる)

どうしても退こうとしない網代車 (忍び乗っていた御息所)

双方の従者たちの争い・ボロボロに破壊され奥へ、罵倒され、忍び姿を見られ、ひどく心を傷つけられる

- ・車争いの屈辱、断ち切れない源氏への愛の未練、若い男から捨てられたという世間的なイメージダウンへの恐れ
- 葵上の懐妊を知り次第に自制心をなくし、身動きが取れなくなる御息所



能『葵上』の御息所

源氏物語に生きた平安次代の女性の再現としてではない。

あまりにも教養があり、プライドが強すぎたがために、愛に身をゆだねることが出来なかった女性のタイプを代表

能

個性の表現だけでなく、普遍的な性格、あるいは情念の根源の抽出を目的。

『葵上』使用される面・装束

面 泥眼—嫉妬に苦しむ女性・龍女

般若—女性の嫉妬の悲しみと怒りの極限を表現

装束 唐織—表着。能装束最も絢爛豪華

摺箔—表着の下に着る

鬼扇—赤の地に一輪牡丹

(講座風景)

(担当:千種)

